

未来につなぐ

恩返し

石井孝治さん（27歳）

温海地域の木野俣集落在住。保全組合一の若手社員で、入社前は温海地域の地域おこし協力隊を務めていた。

佐藤昌幸さん（44歳）

温海地域の一霞集落在住。庄内たがわ農業協同組合の職員であり、自ら設立に関与した株式会社あつみ農地保全組合（以下、「保全組合」という）の統括管理部長も務めている。

地域に返せるものは何か

鶴岡市最西部の温海地域で、地域の衰退を止めるため、活動する人物がいる。佐藤昌幸さんである。佐藤さんは、高校卒業後、温海農業協同組合（現…庄内たがわ農業協同組合）に就職。多くの農家と関わり、農業のいろはを学びながら、稲の営農指導員を務めてきた。

昭和60年頃を境に、温海地域で3千トンあった米の収穫量は3分の2にまで減少し、650haあった水稲作付面積もその半分にまで減少した（参考…農林業センサス）。地元の農業の発展のため、そして自分を育ててくれた農家に恩返しをするため、最善の栽培技術を勧めてきた佐藤さん。しかし、地域の現状から、本当に温海地域の農業に貢献できていたのか疑問を持つようになった。

温海地域の農業を守るには、「地域が抱える課題を整理し、農業で生計を立てられる仕組みを作り、地域の活性化に繋げる」ことが必要であり、それこそが地元の方々への恩返しと考え、平成26年にJA出資型法人として保全組合を設立した。

株式会社あつみ農地保全組合の取組み

佐藤さんが考える温海地域の課題は、安定した仕事を求めて若い世代が地域外へ流出したことや、農家の高齢化により荒廃農地が増えたことだ。保全組合では、地元で管理できない農地を会社で代わりに保全管理し、雇用の場を創出することにより、温海地域の農業の振興を図り、地域の活性化に繋ごうとしている。

荒廃農地の保全管理

草刈り等により、農地の荒廃を未然に防ぐことで営農基盤を確立



農地の再生利用

地元の農家を中心に借用希望者に貸与。借り手が見つからない場合は会社で管理



温海地域 全体の 活性化

営農振興

若い世代の働きたい職業の選択肢になるよう中学生の職場体験等を実施



雇用創出

様々な農作物の栽培や加工品を製作する中で、作業員を雇用。写真は、会社の主力商品である



ワラビのポット苗



パックライス

未来につなぐ

石井孝治さんは、地域おこし協力隊をしていた当時、熟練した技術を持つ地域のお年寄りや山菜等の地域資源の加工・販売を一緒に行ってきた。

「頼られる」ことで生きがいがある、地元の人が健康で楽しく生活できるようにすることをテーマに活動してきた石井さんは、保全組合が目指す「地域の活性化」に通じるものを感じ、今年の4月に入社した。

佐藤さんのように地域全体の活性化に向けて動き出した、温海地域の未来を支える若者の1人だ。



レタス仕分け中、中学生に優しく教える石井さん

《連絡先》

『株式会社あつみ農地保全組合』 山形県鶴岡市湯温海字湯之里 284 番地 電話：(0235) 43-3411